



佐建総第 114 号  
平成19年5月8日

国土交通省道路局  
局長 宮田年耕 様

佐伯市長 西嶋泰 義



### 中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付け、国道企第114号で依頼がありました上記のことについて以下のとおり回答します。

佐伯市は大分県の南東部に位置し、北は津久見市、西は豊後大野市、南は宮崎県延岡市に接しており、南部から西部にかけては「祖母傾国定公園」の一角をなす山岳地帯によって区切られています。東部は豊富な水産資源を有する豊後水道に面し、四国を望む南北200kmに及ぶリアス式海岸が続いており、この海岸線は「日豊海岸国定公園」に指定されています。当市は平成17年3月に旧周辺市町村・1市5町3村が合併し、903km<sup>2</sup>の面積を有する九州管内で最も広い市となりました。域内は、市を縦貫する一級河川番匠川下流域の平野部を中心に発展した市街地と、西部の山間部地域、東部の海岸部地域に大きく区分されます。市街地は、県内・九州内各地との交通の結節拠点となるほか、重要港湾佐伯港から豊後水道を隔てて高知県宿毛市とフェリーで結ばれるなど、社会、経済、文化等の各分野において都市機能を果たしてきました。

本地域は従来から美しく豊かな自然資源を生かした農林業や水産業と、都市部を中心に発展した造船業をはじめ、パルプ、セメント工場等、重厚長大産業を基幹産業としてきました。しかしながら、これらの産業は長期に及ぶ景気低迷もあって、現在は地域全体を牽引するほどには至っていません。そのため、十分な雇用の場を提供できず、過疎化や高齢化に拍車をかける結果となっています。

そこで新市建設における基本方針の一つとして、「一体的な交通体系の整備と都市機能の充実・強化」が掲げられており、その中で、高速道路整備の推進、

域内の国道、県道、市道、都市計画道路の整備による循環型道路網の構築、その他、バス、航路、鉄道などの公共交通の整備等が強く求められているところです。

現在、東九州自動車道の整備を軸として様々な事業が進められていますが、重要港湾佐伯港の整備と併せ、佐伯市が東九州地域における陸と海との物流、人流、文化交流の要となるよう、当地域の更なる道路網の整備促進を切望するところです。

ついては、特に以下のことについて特段の御配慮を賜りますよう、よろしく御願い致します。

#### 《道路ネットワークの整備》

現在、東九州自動車道の津久見IC～佐伯IC間の整備が平成20年の開通を目指して急ピッチで進められています。また近い将来には、さらに蒲江ICを経て、宮崎県延岡市までが結ばれる予定となっています。高速道路の開通により、その効果を引き出し地域全体の活性化を図るため、重要港湾佐伯港の整備と併せ、周辺アクセス道路等の総合的な整備は必要不可欠です。

高速道路等の主要幹線道路の早期整備はもちろん、これと連携した地域間の循環型道路網の整備促進を強く望みます。

#### 《地域の自立を目指した道路整備》

903km<sup>2</sup>という九州で最も広い面積を有する本市においても、少子高齢化ならびに人口減少が著しいところです。本市は地形的な要因から、集落が点在しているため、地域住民の生活にとって道路は大変重要な位置付けとなっています。救急医療はもとより、日常の通勤、買い物等、地域間を広域的に共有できる道路網の整備が急がれます。

#### 《災害に強い道路づくり》

本市は台風の常襲地帯であるとともに、近年さげばれています大型の東南海・南海地震による大津波がいつ来襲するか非常に懸念しているところです。

平成15年、16年に襲来した台風では、道路や河川等の公共土木施設の被害の外、内陸部で、がけ地等の土砂災害、河川沿い集落における内水被害、河口部・海岸部における高潮・越波被害等、様々な災害が多発しました。

このような緊急時において、孤立地域を出さない、地域住民のライフラインの確保という観点から、道路の持つ役割りは計りしれないものがあります。

特に佐伯市は災害に弱い地形であるため、地域防災の上からも、災害に強い道路の整備促進を強く望みます。

### 《観光を活かした道づくり》

当市の山間部は「祖母傾国定公園」の一角をなす森林地域、内陸部は番匠川水系の清流が拓く田園地域、また海岸部は「日豊海岸国定公園」の一翼を担う南北200kmに及ぶリアス式海岸地域といった、山、川、海の多様かつ豊かな自然資源を有した、風光明媚な場所がたくさんあります。特に当市から宮崎県延岡市へとつながる海岸地域には、「日本の渚百選」に選定された元猿海岸、「日本の白砂青松百選」に選定された波当津海岸、その外キャンプ場、展望公園等、多くの施設があり、将来的には当地域にオートキャンプ場を設置することにより車での外来者を増やし、地域の賑わい、活性化を図っていきたくと考えています。また、豊富な水産資源を活かした「東九州伊勢海老まつり」を代表とする「食」の観光に力をいれるとともに、当地域における「日本風景街道」(シーニック・バイウェイ・ジャパン)の推進を目指しているところです。

地域の過疎化対策および活性化を図る上からも、こういった観光資源と連携した道路づくりを望みます。

### 《高齢者や障害者にやさしい道路づくり》

高齢化率が高い当市において、快適な生活環境の構築と活力ある市街地の形成を図るため、歩道や交差点、横断歩道等、道路空間のバリアフリー化を推進し、高齢者や障害者にやさしい道路づくりを望みます。